



茶道の作法を英語で紹介

盛岡一高SG課題研究班「Tea ceremony 体験」

1月20日【釜石情報交流センター】

SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）に指定されている盛岡一高。お茶を通したおもてなしや外国人との交流を探究する課題研究班の生徒8人が、ラグビーワールドカップに向けたインバウンドへの取り組みとして、お茶会を開きました。和服を着た生徒が、茶道の作法やお茶の楽しみ方を日本語と英語で紹介。釜石在住の外国人も参加し、抹茶と菓子を味わいながら、クイズなども交えたお茶会を楽しみました。

オープンシティフォーラム2018 Sharing The LEGACY 私たちはラグビーワールドカップをどう迎えるか

1月20日【チームスマイル・釜石PIT】

ラグビーワールドカップ（W杯）を見据え、持続可能なまちづくりの可能性を探究するフォーラムが開催されました。Airbnb Japan代表取締役の田邊泰之さんによる民泊と体験型観光の事例紹介や、実際に東京と北海道でそれぞれ活動している2人の体験談に、集まった約50人の参加者が耳を傾けました。パネルディスカッションでは、W杯への市民の関わり方や大会後のスタジアムの活用方法などについて意見交換。フォーラム後に開かれたワークショップでは16人が参加し、釜石流の2泊3日でできるおもてなしを考えました。



W杯での釜石の関わり方についてさまざまな意見が出されました

危機対応学トークイベント「釜石港の発展と地域経済」

1月27日【釜石情報交流センター】

経営史・エネルギー産業論を専門とする橘川武郎さん（東京理科大学経営学研究科教授）と企業立地や港湾振興に携わってきた佐々隆裕さん（釜石商工会議所専務理事）をゲストに迎え、トークイベントを開催。参加していた関係者から、修理に3カ月かかると言われたジブクレーンが2週間できた経緯など、当時の状況について詳しく説明もあり、参加者は港湾のスピーディーな復旧とその後の目覚ましい発展に理解を深めました。



縦横につながる復興道路と港湾を生かし、広域的な施策を展開するようアドバイスも送られました

平成31年警察犬委嘱状交付式

1月27日【釜石市民ホールTETTO】

釜石警察署は、管内で訓練されている足跡追及犬4頭、捜索犬2頭に警察犬の委嘱状を交付しました。平成30年の管内の警察犬出動は4件（他署への派遣は7件）。ラグビーワールドカップにおいても会場や市内の警戒などで警察犬の活躍が期待されています。警察犬指導手で、東日本大震災に伴う集中捜索活動に、これまで30回以上、従事してきた金野伸明さんは「警察犬が活躍しないで済むなら、それにこしたことはないが、役に立てるならがんばりたい」と意気込みつつ、後継者を育成したい考えも話しました。

※災害救助犬や囃託警察犬の活動に興味のある人は金野さんまで（☎28-4271）



交付式の後、警察犬は防犯を呼びかける活動にも参加しました

小正月を祝う、みずき団子作り

豊作や1年の健康を願い、市内各地で小正月行事「みずき団子作り」が開催されました。1月10日、かまいしこども園では、同園の園児29人と大槌保育園の園児28人、地域住民16人に加えて、釜石シーウェイブスの選手も参加。赤や黄色、緑などカラフルに色付けされた団子作りに取り組みました。子どもたちは、丸めてゆで上がった団子をミズキの枝に飾りつけ「お花みたい!」と笑顔を見せました。



力を合わせて飾りつけ(かまいしこども園)



平成31年釜石市消防出初式

1月6日【釜石市民ホールTETTO、大町】

式典では、消防防災に対する功績を讃え、釜石市長表彰や遠野釜石地区支部表彰が授与された他、平成29年5月に発生した林野火災での消防団活動の功労に対し、釜石市消防団が平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰（団体）を受けたことも報告されました。ラッパ隊の吹鳴で始まった分列行進には、消防団員ら688人、はしご車やポンプ車など45台が参加。火災の無い安全なまちづくりへの決意を新たにしました。



りりしい姿の消防団員。沿道に集まった子どもたちは、その勇姿に目を輝かせました

かまっこまつり

1月12日【鵜住居公民館】

6年目となった今回は、5歳から中学1年生までの18人が参加。たこ焼きやわたあめなどのやってみたいお店を考え、自分たちで準備をしてきました。（一社）三陸ひとつなぎ自然学校のスタッフはサポートに徹します。来場者は受け付けで独自のお金を貰い、買い物をする。お金がなくなったらアルバイトをして稼ぐことも。雑貨屋（キーホルダーなど）の店番をした子は「品物の量を作るのが大変だったけど、お客さんがかわいいといってくれと嬉しい」と微笑みました。



子どもたちの呼び込みの声が、会場いっぱいに広がりました



スタジアムから避難する大槌高校生ら

国民保護共同実動訓練

1月15日【釜石鵜住居復興スタジアム、釜石東中他】

テロ対策強化のために国と県、市が合同で実施した訓練。ラグビーワールドカップが開催されるスタジアム周辺で実施されました。県内各地の消防や医療、警察、自衛隊、地元の自主防災組織など約900人が参加。訓練は「試合前のスタジアムでドローンによるサリンの散布と駐車場での爆発で多数の死傷者が出た」という想定で行われ、関係者が連携や対処法などを確認しました。

するめっこ釣り

1月15日【尾崎白浜】

尾崎白浜地区に昔から伝わる豊漁と安全を祈願する小正月行事。イカ釣り漁師に扮した男の子16人が、地区内の大漁旗を飾った家々をまわりました。子どもたちは玄関先や神棚の前で「するめっこ釣らせてください」とあいさつ。口をすばめて「キュッキュッ」とイカの鳴き声をまねながら、イカの模型が付いた釣竿を振り、何度もイカを釣り上げます。家主からの「なんぼ釣った?」という問いかけに、大きな声で「満船! (大漁)」と応じると、家の人は、子どもの顔に大漁などと墨を塗り、ご祝儀にお小遣いやお菓子、温かい飲み物などを振る舞いました。



勢いよくイカを釣り上げる子どもら

復興道路シンポジウム

1月19日【釜石市民ホールTETTO】

沿岸と内陸を結ぶ初的高速道路「東北横断自動車道釜石秋田線」の全線開通（3月予定）を前に、道路の事業化からこれまでの取り組みと今後への期待を発信するシンポジウムが開催されました。オープニングで「両虎虎舞」が披露された後、震災時に国土交通省東北地方整備局長として復興道路のスピード整備に尽力した徳山日出男さん（現政策研究大学客員教授）が講演。「復興道路の事業化や異例のスピードでの道路整備の背景に、多くの人の犠牲があったことを忘れてはいけない」と強調しました。続いて「つながる復興道路、これからの岩手釜石」をテーマに、市内で活躍する4人が意見交換し、震災当時の体験や道路の今後の活用方法など、熱い思いを語り合いました。



左から岩崎昭子さん、沼崎健さん、桜庭吉彦さん、岩間栄治さん